

2019（令和元）年度予算の概要

1. 基本方針

1. 「清泉女子大学グランドデザイン」、2018(平成30)年度事業計画・予算の進捗状況、2019(令和元)年度事業計画方針を踏まえ、本学の教育・研究目的の実現を目指して予算を編成する。
2. 大学を取り巻く厳しい環境の中、本学が特色のある大学として発展していくため、学内で検討を重ねている教育学習支援、カリキュラム改革、国際交流推進、広報態勢強化、施設・設備等整備の取組等への重点的予算配分を行う。(教学)
3. 文部科学省の補助金政策、認証評価制度の評価基準などから考えて、本学の入学者数は今後440名を上限の目処としていく必要がある。また、18歳人口の減少に伴う大学入試動向から考えても、本学の教育の質を保つためには、入学者を440名以下に抑制していくことが適切である。長期修繕計画に基づく図書館等の外壁・防水工事の実施、及び3号館耐震工事实施により2019年度～2022年度のキャッシュフローは赤字が見込まれる。2023年度以降、440名程度の入学者があれば、経常収支差額を均衡から若干のプラスとしつつ施設・設備等の支出を賄うことが可能であるが、入学者数が減少すると、2023年度以降の財務状況は赤字基調となりかねない。今後も安定的な大学運営が可能となるように、財務上の長期目標を示し、それを達成するべく財務力を強化する。(財務)

2. 財務力強化の目標と取組み

1. 財務力を強化するため、経常収支差額比率、対経常収入人件費比率、手元流動性資金の3つの数値を指標として目標を設定する。(これまで事業活動収支差額比率を指標としていたが、私学事業団の経営判断指標に合わせ、経常収支差額比率を指標とする。)
2. 長期目標（2030年度達成を想定）、中期目標（2024年度達成を目標）、短期目標（2020年度達成を目標）を、下表のように設定する。

	2019(R1) 予算	2020(R2) 短期目標	2024(R6) 中期目標	2030(R12) 長期目標
経常収支差額比率	0.9%	3%	4%	8%
対経常収入人件費比率	58.70	57.5%前後	57%	50%台半ば
手元流動性資金	年度経常支出と同等	同左	同左	同左

3. 長期目標、中期目標を達成するために、人件費および諸経費の抑制に取り組む。
 - (1) 人件費を抑制するために、教員人件費抑制案を検討中であり、2019（令和元）年度中の提案および合意を目指す。
 - (2) 今後数年の間に定年退職する専任教職員の後任採用に際しては、有為の人材の採用に意を用いるにとどまらず、人件費抑制という観点から、年齢構成や雇用形態の構成等について配慮する。
 - (3) 諸経費を抑制／削減するために、業務効率化や相見積もりの徹底などの取組を継続する。

3. 2019(令和元)年度予算編成方針

1. 予算案概要

支出の抑制に関しては、前項の「2. 財務力強化の目標と取組み」参照。

2. 入学学生数

文学部は定員の 1.13 倍(約 440 名)を上限の目処とする。大学院は 10 名程度を目処とする。

3. 教員数と教員人事制度

① 53 名とする。

② 任期付教員、特別任用教員制度の趣旨を踏まえ、教育内容や教員業務の多様化に対応するよう、教員採用人事を進める。

4. 職員数と職員人事制度

① 47 名(2018 年初と比べ、1 名増)とする。

5. 教学に関する支出の重点事項

(1) 教育力向上

① 教育・学習支援センターの設立に関する事項

(2) 学生募集

① 大学の認知度上昇のための web 広報に関する事項

(3) グローバル人材育成

① 国際交流を主目的とする学生寮運営に関する事項

② 発展協力会の給付型奨学金およびチャレンジ奨学金の活用に関する事項

6. 大学施設／設備に関する支出の重点事項

(1) BYOD 導入およびそれに付随する施設・設備の整備

(2) 施設・設備の維持・更新

① 図書館空調設備

② 化学室・講師室天井工事、講堂発電機更新等

(3) 施設・設備の長寿命化

① 図書館・講堂・4 号館の外壁・防水工事等

(4) 3 号館耐震工事(新規)

2019 年度は設計、施工計画作成

(5) 地域住民に配慮した計画的防災対策(継続)

2019 年度は土砂崩れへの備え等

7. 収入増の取組み

① 補助金獲得に関する取組み

② 発展協力会の、若年層・企業等への寄付金に関する取組み

8. その他

① 建学の精神の継承に関して、海外の聖心侍女修道会やその教育活動の視察

② 70 周年記念事業の計画の策定

令和元（2019）年度予算の概要

1.事業活動収支予算の概要

事業活動収支予算書は①教育活動収支②教育活動外収支③特別収支の三つの活動に区分され、それぞれの区分毎に収支差額を計上しています。

(1) 三つの区分での収支状況

①教育活動収支

学校法人の教育活動に係る収支状況を表す教育活動収支差額は、8百万円の収入超過(前年度予算比68百万円の減)の見込みです。

②教育活動外収支

財務活動などの学校法人の教育活動以外の経常的な活動に係る収支状況を表す教育活動外収支差額は、14百万円の収入超過(前年度予算同額)の見込みです。

③特別収支

経常的な活動以外の臨時的な活動に係る収支状況を表す特別収支差額は、11百万円の収入超過(前年度予算比13百万円の増)の見込みです。

(2) 経常収支差額

学校法人の経常的な活動に係る収支状況を表す経常収支差額は、22百万円の収入超過(前年度予算比68百万円の減)の見込みです。この経常収支差額は、教育活動収支差額8百万円と教育活動外収支差額14百万円の合計です。

(3) 基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額3百万円は、経常収支差額22百万円と特別収支差額11百万円の合計から予備費30百万円を差し引いた額です。

基本金組入前当年度収支差額の構成

○事業活動収入計 25億80百万円

教育活動収入 25億53百万円	教育活動外収入 14百万円	特別収入 14百万円
経常的な収入 25億67百万円		

○事業活動支出計 25億77百万円

教育活動支出 25億45百万円	特別支出 2百万円	予備費 30百万円	基本金組入前 当年度収支差額 3百万円
経常的な支出 25億45百万円	*教育活動外支出はありません		

(4) 基本金組入額

基本金組入額は、1億65百万円です。

これは、学校法人の諸活動を永続的に維持するために必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして組入れる金額です。

なお、基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

第1号基本金は、建物、機器備品、図書などの固定資産の取得額です。

第2号基本金は、1号館校舎建替拡充資金として計画的に組入れている積立金です。

第3号基本金は、学園募金等の資金をファンドに、利息等で奨学事業や教育助成事業等を行っています。

第4号基本金は、学校が諸活動を円滑に遂行するために恒常的に保持すべき資金です。

(5) 当年度収支差額

当年度収支差額は、1億62百万円の支出超過です。

これは、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた額です。

2.資金収支予算の概要

資金収入は31億22百万円となり、これに前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計は61億78百万円の見込みです。

これに対して、資金支出は32億68百万円となり、この結果、翌年度繰越支払資金は、29億10百万円の見込みです。